

# さとわ

No.17

さとわ

## 緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。



### 長引く新型コロナ対応の中で

施設長 篠川 主

昨年の御挨拶の文章でも新型コロナに関する事柄を書かせて頂きました。皆様の中にはコロナと聞くともうんざりだという方も多いと思います。しかし私達とコロナの戦いはまだ終わりの見えない中にあり、変異ウイルスの感染拡大によりさらに混沌とした様相を呈しています。長期化する対応の中で、人間という生物の忍耐、協調性、思考に限界があることが判ります。世界各地でマスクの義務化や外食、集会の制限に対する反発が起っています。日本に於いても緊急事態宣言が出て、人流は減らず、店舗やイベントの営業制限による経済的打撃に見合う効果が得られにくくなっています。

一方、病院でどんなに細やかに対応しても、残念ながら各地で病院内クラスターが発生しています。当病棟でも面会制限を受け入れられず、「他の人はどうでもいい、自分達はがん患者の親と一緒に居たいんだ。自宅に帰るか、老人施設に入れば毎日会えるはずだ。」と訴えられた御家族もおられました。しかし御自分で実際手配しようとしても、医療資源の乏しい地方においては、受け入れられる環境が全く無いという壁に当たり、結局病棟のルールに従い入院を継続するしかないと気付かれました。

ボランティアの活動は休止したままで、病棟スタッフのみでできる限りの活動を続け、何とか入院されている皆様の心が安らぐよう努力してきました。私も野菜を植えて欲しいという要望を受け、花壇を畑にすることは出来ないので、舗装された庭に初めてプラン

ターを使って野菜を育ててみました。現在17個の容器に作物を育てております。農業経験のある方からは色々厳しい御意見を頂いておりますが、同時に収穫できる喜びも感じて頂いております。

作業を行っているとき遠くからガラス越し面会の御家族の声が聞こえてきます。多い日は何組も御家族が面会に来られます。中には思わず力が入って窓をどんどん叩き、危険なのでスタッフから注意されたり、声が聞こえにくい方は窓越しにお互い携帯電話を使って会話をされています。そこにはオンライン面会よりも御家族同士の深い思いが伝わるように思えます。窓越し面会も予約制で、時間の制限もあります。改めて考えてみれば、私達が生れてから持っている時間には限りがあり、家族と関わる時間もコロナ禍で無くとも有限のものです。農作業をしながら皆様の声を聴かせてもらい、コロナ禍にかかわらず生きている時間は貴重、無駄にできないものだという思いを強くさせて頂きました。



## 緩和ケア「郷和」が私に教えてくれた事

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟副看護師長  
加藤 由美

看護師としてベテランと言われる頃、私は郷和で仕事をさせて頂く事となりました。あれから6年が過ぎ、月日が流れる早さを実感しています。転職するにあたり、緩和ケアに携わる事に非常に迷いがあり、患者様とご家族に真摯に寄り添える事ができるのだろうか、という漠然とした不安がありました。思えば、新人の頃、初めて患者様と向き合うドキドキした気持ちに似ていた様に思います。緩和医療の知識不足は勿論のこと、一般病棟との明らかな違いに戸惑う毎日でした。「お看取りをする」という言葉の重みを感じましたし、経験すればするほど、自分の関わり方の気遣いの無さに後悔する事ばかりです。申し訳ない気持ち、悲しい気持ち、残念な気持

ちなど、溢れるように出て、暫くは気持ちの整理がつかない事も多いですが、その後悔のひとつひとつが、今の自分に足りなかったものを気づかせてくれていると感じています。また、お看取りを通して、ご家族の言葉に私自身が反対に励まされたりする事もあり、恐縮すると共に感謝する次第です。コロナが収束しない中、今まで以上に寄り添う心を大切に看護に携わっていきたいという気持ちが強くなっています。そして、人として優しくありたいと思っています。いつか私も誰かの看護を受けた時、自分のしてきた看護を振り返ってまた後悔するでしょう。でも、良い関わりが出来たとひとつでも多く思い出す事が出来たら、と思わずにはいられません。

## 緩和ケア病棟でのリハビリについて

南部郷厚生病院 理学療法士  
地濃 千穂

緩和ケア病棟でもリハビリを行うの？と思われる方がいるのではないのでしょうか。“つらく厳しく大変”というリハビリのイメージがあるためではないか、と思います。緩和ケアでのリハビリは、決してそうではありません。緩和ケアで行われるリハビリの目的は、基本動作・日常生活動作の維持・向上、廃用症候群の予防・改善、浮腫の改善、疼痛緩和、心理支援等があります。患者様やご家族の希望・要望を伺い、残された大切な時間をどのように過ごしていきたいか、1人1人の患者様の気持ちに寄り添い、リハビリ実施していきます。

緩和ケアでのリハビリにおいて、どう頑張ってもどうにもならない事があり、自分は無力であると感じることがありました。しかし、最近担当させていただいた患者様より、毎回「ありがとう。あなたが来てくれてよかったよ。また来てね。待ってい

るよ。」という言葉をかけていただき、訪室することや会話そのものが患者様の支えになっていること、心理支援になっていることを実感することができました。この経験を活かし、新型コロナウイルス感染症流行により面会や付き添いが制限されている中でも、より良い時間が過ごせるよう、理学療法士として寄り添っていきたいと思います。



新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティアさんとともに行事などの活動ができなくなってから1年が過ぎました。昨年はスタッフで相談しながら、患者様に少しでも日常を感じ、楽しんでもらえるように工夫しながら行事を行った1年でした。

昨年より施設長の篠川先生を先頭に、患者様が楽しめるよう庭に野菜の苗をプランターで育てています。昨年は真っ赤に実ったミニトマトや、みずみずしいきゅうりなどの収穫を楽しみました。患者様から料理のアイデアが出て、調理をして食べることもありました。今年の野菜も青々と育てています。

また、昨年に引き続き、笹団子作りは楽しく、とても美味しく今年も大好評でした。ただ、病院スタッフだけでは行事の運営に限界があり、ボランティアさんのお力があれば・・・と感じることもしばしばあります。早く一緒に活動したいと思いながらも現状では活動再開が叶わず、不安に思っていた中、ボランティアさんから「花壇の手入れだけでも出来ないか」とお電話を頂きました。なにか出来ることはないかと声を上げてくださったその心に、スタッフ一同とても感謝しております。

ワクチン接種が進み、ボランティアさんにも安心して一緒に活動していただける日が1日でも早く来ることを祈っております。

### 笹団子作りの様子



## 2020年度 実施行事

- |    |         |     |                |
|----|---------|-----|----------------|
| 4月 | お花見     | 11月 | 押し花コースター作り     |
| 6月 | 笹団子作り   |     | クリスマスカード作り     |
| 7月 | 七夕      | 12月 | クリスマス会 ハンドベル演奏 |
| 9月 | お月見団子作り | 1月  | 鏡開き            |
|    |         | 2月  | 節分 豆まき         |
|    |         | 3月  | ひな祭り           |

### 「郷和」利用状況

(2020年4月～2021年3月)

入院患者数	100人
-------	------

退院患者数	94人
(死亡退院)	91人
(自宅退院)	3人

一日平均入院利用者数	13.8人
------------	-------

平均病床利用率	68.8%
---------	-------

平均在院日数	58.8日
--------	-------

発行年月日 2021年6月4日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300

ホームページ <http://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

メールアドレス kosei@sinjinkai.or.jp

